

注意点1

理論

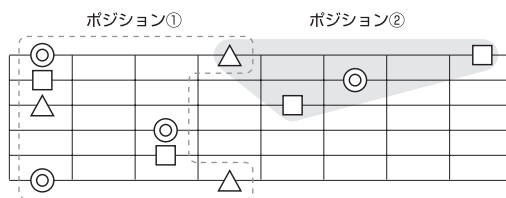
3本弦+6本弦による スウィープ・ポジション

まずは、このメイン・フレーズのポジションを確認しよう。このフレーズでは、6本弦+3本弦の複合トライアド・ポジション【註】を使用しているので（図1）、2つのトライアド・ポジションを確実に頭に入れる必要がある。フレーズの土台となる6弦ルートのトライアド・ポジションは、人差指でセーハするバレー・コードと形が似ているので、比較的覚えやすいと思うが、メジャーとマイナーの違いをしっかり理解することが大切だ。6本弦スウィープは、実際の演奏時には異弦同フレットのセーハが頻出するので、P.66のウェブ対応の詳細解説に記した左手のウェーブ運動を駆使して、各音を的確に押弦&ミュートしてほしい。スウィープの中でも高難度なプレイなので、じっくり練習しよう。

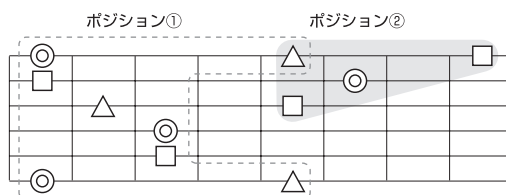
図1 スウィープ・ポジション図

◎ルート音 △3rd音 □5th音

・マイナー・トライアド



・メジャー・トライアド



注意点2

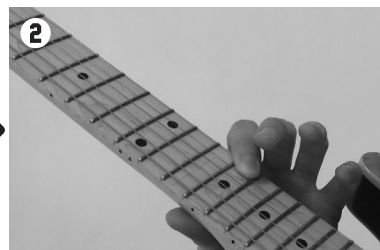
左手

人差指を素早く動かして 1弦→6弦へ大移動せよ！

このメイン・フレーズでは、小節と小節の繋ぎ部分に注意が必要だ。この箇所は1弦から6弦に瞬時に移動するので、左手を素早く的確に動かさなければならない。1小節目4拍目～2小節目を例に挙げて、攻略のポイントを解説すると、1弦15フレットの音を少し短めに切って、人差指を瞬時に6弦8フレットに移動させると良い（写真①～③）。また、大移動後も上昇スウィープ・フレーズが続くので、人差指と同時に薬指と小指の押弦準備も行なうように心掛けよう。コード・チェンジ後の最初の音はルート音になるので、しっかり鳴らせないとコード感が失われてしまうので気をつけること。弾き慣れるまでは、この大移動部分のみをピックアップしてくり返し練習しよう！



① 小指による1弦19fの押弦時。人差指は離さないように。



② 人差指の押弦時には、6弦への大移動を意識しておこう！



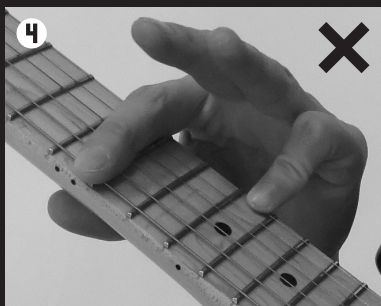
③ 6弦8fを押さえると同時に、薬指と小指の準備もする。

～コラム11～

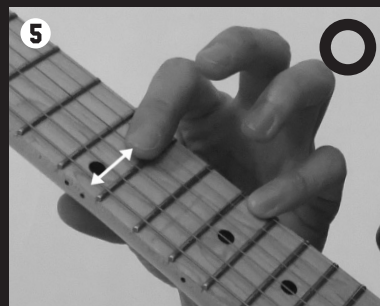
教官の戯れ言

6本弦スウィープは、バレー・コードと形が似ているため、最初人差指で1～6弦をすべて押さえてしまうギタリストがいる（写真④）。しかし、これは間違いだ。実は著者自身も高校生の時は、こういう弾き方だと勘違いしていたのだが、これでは各コード音を綺麗に分けながら鳴らすことはできない。したがって、人差指は上昇／下降に合わせて、順番どおりに動かすことが大切だ（写真⑤）。ちなみに、人差指は余弦のミュートとジョイントを担当することが多いので寝かせると良い。6本弦スウィープでは、左手人差指の動かし方に注意すべし！

人差指による全弦ジョイントはNG！ 6本弦スウィープの正しい弾き方



④ 1～6弦をすべてセーハしてしまうのはダメ。これでは、ただのコード弾きになってしまう。



⑤ 人差指は上昇／下降に合わせて弦移動しよう。指を立てると、余弦のミュートとジョイントができないので注意！

【複合トライアド・ポジション】複数のポジションを重ね合わせることで、フレーズの幅を広げることができる。指板上に無数に置かれたコード音を瞬時に見極められる“鷹の目”を手に入れられるように、日々修行せよ！

入隊

伝授

出撃

決戦

終幕